

「周防大島グリーン・ツーリズムの展望」

～ふるさとは宝島、人がつなく周防大島グリーン・ツーリズム～



平成18年3月

周防大島グリーン・ツーリズム実行委員会

目次

1. はじめに	1
2. 周防大島らしいグリーン・ツーリズムの推進イメージ	2
3. 周防大島の農業の現状と課題	3
4. 課題解決へ向けた推進の基本的方向	6
5. 多彩なグリーン・ツーリズムの展開要素	9
6. 推進のための体系と想定される効果	12
7. グリーン・ツーリズムの推進に向けて	13
8. おわりに	16



1.はじめに

グリーン・ツーリズムとは

「緑豊かな農山村地域で、その自然、文化、人々との交流を楽しみながら、訪れた人々がゆとりある休暇を過ごす滞在型の余暇活動」のことです。

農山村の具体的な取組みとしては、農家民宿、農家レストラン、農産加工・直売所、観光農園、市民農園などに地元の人々が携わることなどがあげられます。

今、人々の価値観は、「ものの豊かさ」から「心の豊かさ」の追求へと向かうとともに、経済の高度成長から安定成長へ、そして脱工業化社会への移行や余暇時間の増大などとともに、食の安全や環境への関心が高まり、ライフスタイルの多様化および「ふるさと回帰」の傾向が顕著になっています。また、団塊の世代が定年を迎え、第二のふるさと探しを始めようとしています。

こうした状況のなか、グリーン・ツーリズムが注目され、農山村を訪れる人々は年々増加しています。グリーン・ツーリズムは、都市住民ばかりでなく、農山村住民にとっても、地域づくりの活性化や物心両面の豊かさなど、多くの効用が期待できます。

ここ周防大島町においても、さまざまな団体や個人によって、「周防大島くらし体験」や「援農ボランティア」などをはじめとする、本地域の特性を活かした柔軟かつ多様な交流への取組みがすでに始まっています。

これらを背景にして、平成16年10月1日に大島郡4町が合併して周防大島町が誕生した後、新町建設計画の実現に向けた農業サイドの取組みのひとつとして、11月25日に「周防大島グリーン・ツーリズム実行委員会」が組織化され、住民参画型の「周防大島グリーン・ツーリズム推進ワークショップ」を中心に、本地域におけるグリーン・ツーリズム推進に向けての可能性や活動が継続的に検討されてきました。

この「周防大島グリーン・ツーリズムの展望」は、本地域のグリーン・ツーリズムの基本的な考え方、とりわけ周防大島町らしいグリーン・ツーリズムのありかたや方向性などについて現地調査や話し合いを重ねてきた結果をとりまとめたものです。

今後は、「周防大島町総合計画基本構想」に掲げられた将来像、『元気 にここに 安心で21世紀にはばたく先進の島』や、「周防大島地区農村振興基本計画」に掲げられた将来像、『21世紀にはばたく生涯現役の島 周防大島』に、グリーン・ツーリズムの推進は寄与するものと考えられます。また、諸関係者との連携を図りながら、グリーン・ツーリズムに関する住民活動を点から線へ、そして網目のようにネットワークしていき、本地域全体としての具体的な行動によって人々に活力が拡がり、農山村地域の活性化につながることを願っています。

平成18年3月

周防大島グリーン・ツーリズム実行委員会

会長 河野 公二

ワークショップとは、参加者同士が体験を通して何かを学びあい、ともに創りあげていく場のことです。

2. 周防大島らしいグリーン・ツーリズムの推進イメージ

平成16年度の「周防大島グリーン・ツーリズム推進ワークショップ」において、下記のような周防大島らしいグリーン・ツーリズムの推進イメージが検討されました。

いいネ！周防大島【個性的で味わいのあるグリーン・ツーリズム推進イメージ】

海・里・山、島の元気力

オンリーワンだったらいいネ！（瀬戸内産業で本気・本物の地域おこし）

長寿の島・若返りの島になれるといいネ！

みかんの花の香りいっぱいの島になれたらいいネ！

海・里・山の自然が活かされたらいいネ！

里山が再生できたらいいネ！

宮本常一の宮本イズムを大切にしたいネ！（郷土のことは郷土で）

ココロとカラダしまごはんに美味しい島食

食材が地元でまかなえたらいいネ！

（海の幸・山の幸、里の幸、自給自足の島。スローライフ・スローフードの島）

いつもの周防大島の地元食、「島ごはん」が地元で味わえたらいいネ！

島ぐらしのおすそわけ

ぐるり島を散策できたらいいネ！ゆるり島ぐらしを体験できたらいいネ！

昔の知恵に学べるといいネ！（昔の知恵マップ）

周防大島発！島ブランドができたらいいネ！

わがまま宿泊がチョイスできたらいいネ！

（農家民宿、旅館、ホテル、クラインガルデン、コテージ、キャンプなど）

陽だまりの交流・定住基地

老若男女みんななかよし！心の発信基地だったらいいネ！

みんなのたまり場・しゃべり場、情報の場があったらいいネ！

（陽だまりのような島内外ネットワークセンターづくり）

周防大島に住む人が増えたらいいネ！（定住・交流人口の増加・UIJ）

10万人の島ファンができるといいネ！

スローな島時間が流れるいやしの島

心の原風景になれたらいいネ！

ぼーっとゆったりできるところがいいネ！（スローに過ごせる隠れ島）

いやしの島になったらいいネ！

唄のある島になれたらいいネ！

終のすみかになれたらいいネ！

【周防大島グリーン・ツーリズム推進イメージ】

ぐるっとまるかじり周防大島ツーリズム

島の個性を活かしたグリーン・ツーリズムで、元気な周防大島づくり

3. 周防大島の農業の現状と課題

(1) 地域の現状

平成16年10月1日、久賀町、大島町、東和町、橘町が合併して周防大島町が誕生しました。

本地域は、山口県の南東部に位置し、対岸の柳井市とは大島大橋でつながり、愛媛県と県境を接する農山漁村です。緑豊かな600m級の山々と瀬戸内海の美しい海を擁し、年間を通じて瀬戸内海型の温暖少雨の気候を特徴とした風光明媚な島です。

島の面積は138.5km²で、地形的には、山林原野が地域の6割を占め、海岸沿いに狭小な平地が点在しています。また、山腹の斜面を活用して柑きつ類の栽培が盛んで、本地域らしい特徴ある景観を形成しています。農業では、県下有数の生産で知られる温州みかんをはじめとする柑きつ類を主に、水稻、さつまいも、野菜、畜産等の地域特産物の生産が行われています。

しかし近年では、基幹産業の柑きつ類においても、農業従事者の高齢化や価格の低迷、後継者不足、鳥獣被害などが顕著になっています。

周防大島町の人口は、平成17年現在で22,105人で、高齢化率は44.3%と極めて高く、全国ベースで3倍、山口県ベースで3倍も早く進んでいます。また、少子化や若者の都市への流出などにより、農業の担い手不足が加速しています。その一方で、Uターン、Iターン、Jターンを希望する人たちも少しずつ増加しています。

さらに近年では、援農ボランティアをはじめ、地域特産物や地域資源を活かした体験型のグリーン・ツーリズムや食と緑をテーマにした交流活動なども、多彩な団体や個人によって活発になりつつあり、交流人口の増加にも結びついています

周防大島地域における交流人口の増加状況

平成14年：668千人 平成15年：691千人 平成16年：825千人

(山口県観光客動態調査より)



(2)地域の課題

周防大島町の農山村の現状及び地域住民の意向を把握するため、本地域で行われたアンケート調査をはじめ、「周防大島グリーン・ツーリズム推進ワークショップ」やヒアリングなどをまとめてみました。本地域の課題として、次のようなものがあげられます。

輸入農産物の増加や農産物の価格の長期低迷などにより悪化した農業経営の改善
農家の生産意欲を低下させる鳥獣被害への対策
基幹産業である大島みかんの産地としての再生とみかん園の維持
立ち遅れている農道や水路などの整備
農地(園地)の分散や急傾斜での生産活動という厳しい労働環境の改善と効率化
消費者ニーズに応える特徴ある農産物の生産・加工・販売の体制づくり
少子高齢化などによる担い手・後継者不足からの脱却

周防大島の農業・農村の再生活動

里山や農地の荒廃、ゴミの不法投棄などによる自然環境および景観悪化への対策
本地域の1/3を覆っている荒れた竹林の整備活動の拡大
周防大島沿岸の水質悪化や漂着ゴミへの対策
釣り客や観光客などのマナー向上への呼びかけPR

周防大島の環境・景観の保全活動

豊富な観光資源や農山村における体験交流を生かした新産業の創出
観光農園の魅力強化
広域的な交流・観光振興のためのネットワークや情報センター機能の形成
U・I・Jターン者のための土地、住宅、就職などの斡旋のしくみづくり
若者をはじめ熟年者や高齢者の個性や才能を活かす活躍の場づくり
グリーン・ツーリズム推進のためのマップ、パンフレット、サイン計画の整備

多彩な交流活動の基盤づくり

伝統的な技や食農文化の継承
本地域住民の希望・やる気・誇りの醸成
若者をはじめ熟年者、高齢者の生きがい創出で、生涯現役の島づくり

地域周防大島の生活文化への誇りと愛着の醸成

(3) 地域の課題、ハード・ソフト別の検討

ハードに関する課題の検討

みかん産業活性化のための基盤整備

- ・ オレンジロードの活用～ぐるり島めぐりルートの整備
(周防大島眺望景観の整備と展望広場の整備)
- ・ 農道、作業道、水路の整備(高齢化への対応と担い手育成への対応)
- ・ みかん棚田の石垣補修による景観保護
- ・ みかん文化・交流・情報拠点
- ・ 鳥獣害からの防護

耕作放棄地、荒廃地、遊休農地の活用

- ・ U I J ターンをふまえた短・長期滞在型農園の検討
e x . 市民農園、クラインガルデン等の整備

援農ボランティアや周防大島ツーリストの宿泊施設の確保

- ・ 大島青年の家等、既存施設との連携

I T による情報ネットワークづくり

- ・ 防災
- ・ 情報ネットワーク

サイン計画によるイメージアップと回遊性の確保

竹林整備によるバイオマスエネルギーの活用

周防大島八十八カ所巡り道路の整備～ 祈りと癒しの島づくり

ソフトに関する課題の検討

周防大島グリーン・ツーリズムのセンター機能整備

周防大島ツーリズム・プログラムの開発

営農組織の育成

高大連携

- ・ 田布施農業高校大島分校との「グリーンライフ連携」
- ・ 山口大学との山口ツーリズム大学連携

周防大島ブランドの確立

- ・ 周防大島ブランド研究所(加工施設の併設)
- ・ 直売所のネットワーク化とイメージ戦略
- ・ 生産・加工・販売・交流の複合型産業の確立
- ・ 「周防大島ツーリズム」のブランド化(農林水産サービス業の連携)
- ・ さつまいもの島の復活と焼酎づくり

島の達人の発掘

観光産業との連携

宮本常一のおしえと「ツーリズム魂」の継承

星野哲郎をはじめとする著名人・文化人との連携

4. 課題解決へ向けた推進の基本的方向

(1) 課題解決への一歩

【グリーン・ツーリズムを通じて、周防大島の元気づくり】

～「ゆっくり・ゆったり・ゆたか」さを体感する周防大島グリーン・ツーリズムの推進～

- 周防大島の農業・農山村の再生活動
- 周防大島の環境・景観の保全活動
- 多彩な交流活動の基盤づくり
- 周防大島の生活文化への誇りと愛着の醸成

【体験、交流、滞在、宿泊、そして定住へ】

グリーン・ツーリズムの推進によって、体験、交流の機会を拡大すると共に、滞在時間の延長から宿泊へ、さらには定住へとつなげていきます。

そのためにも

第1段階・・・「周防大島グリーン・ツーリズム」の導入と定着

第2段階・・・「ぐるっとまるかじり周防大島ツーリズム」への拡大

周防大島グリーン・ツーリズム

周防大島ブルー・ツーリズム

島ぐるみの取組みへ・・・【ぐるっとまるかじり周防大島ツーリズムの実現】

グリーン・ツーリズムを新産業として育むためには、島ぐるみで取組み、体験施設、飲食施設、宿泊施設、交流イベント、農山漁村での体験メニューなどが相乗的に連動して、個性的で味わいのある、ぬくもりのサービスを提供していく仕組みづくりが望まれます。「周防大島グリーン・ツーリズム」の推進による交流人口の拡大が、島を元気にします。さらに、海と里と山でつながる周防大島ならではの魅力を最大限に発揮するために、現在進行中の、賑わいのある浜づくりをめざす「周防大島ブルー・ツーリズム」との連携をも図っていきます。

「周防大島グリーン・ツーリズム」の推進に向けては、本地域の農山村の暮らしや魅力に触れたいと望む都市生活者のニーズに応えるだけでなく、受け入れる農山村にとっても、多様な所得・雇用機会の創出による経済的な効果とともに、農山村の有する価値や暮らしの再発見、生きがいや誇りの創出などが期待されます。

「周防大島グリーン・ツーリズム」では、まず導入として、本地域を訪れ、自然、生活、伝統の技、文化、まつり、そして農作業や食などを「体験」し、訪れる側と受け入れる側とのふれあいなどの「交流」づくりを行います。その印象や感動が深ければ、さらにリピーターとなり「滞在」時間は増えていきます。訪れる人たちに、本地域で、「ゆっくり、ゆったり、ゆたか」な時空間を過ごしたいという思いが生まれ、または第二のふるさとのような愛着が感じられれば、「宿泊」につながり、やがて「定住」へと移行していくことも可能です。

「周防大島グリーン・ツーリズム」の多様な交流活動イメージ

体験	周防大島くらし体験 農体験 食体験 自然体験 観光農園
交流	交流イベント、まつり、講座、宅配便、直売所、農家レストラン
滞在(日帰り)	援農ボランティア、みかんオーナー、いきいき営農塾、学生耕作隊
	親戚づきあい、キャンプ、みかんサポータークラブ、温泉
宿泊	民宿、旅館、ホテル、クラインガルデン、旅行村、ホームステイ
定住	別荘、借家、持ち家

周防大島と都市部の交流形態

レジャー型	自然休養村、ペンション、観光農園、市民農園、食農体験ツアー
教育型	自然教室、修学旅行(農業体験学習等)、スポーツ合宿、総合学習 インターンシップ ワーキングホリデー 子どもの田舎づくり
まつり型	伝統のまつり、観光イベント、朝市、青空市場
縁組型	姉妹都市提携、サミット、特別島民制度 交換留学
根おろし型	工芸村、芸術家村、別荘村
たより型	オーナー制度、ふるさと宅配便、周防大島ファンクラブ
ふるさと保全型	里山再生活動、植林活動、海岸清掃、援農ボランティア

グリーン・ツーリズムメニューの拡大へ:ニーズ対応パターン

都市住民 ニーズ	レジャー 型	教育型	まつり型	縁組型	根おろし 型	たより型	ふるさと 保全型
体 験							
交 流							
日帰り 滞 在							
宿 泊							
定 住							

本地域の交流活動のポテンシャル(潜在能力)をマトリックス(一覧性のある表)してみると、都市住民の多様なニーズやライフスタイルに対応可能なグリーン・ツーリズムプログラムが提供可能なことが確認できます。

(2) 推進の基本的方向

「周防大島グリーン・ツーリズム」の推進にあたっては、住民自らが周防大島の魅力に気づき、引き継がれてきた農の営み、生活・文化・伝統・自然などの価値を見直し、守り、育てていくことが大切です。また、さまざまなかたちで収入にも結びつけていくことによって、本地域の新たな活力を生み出していきます。

「周防大島グリーン・ツーリズム」の推進役は、本地域で生活を営む島民であり、都市住民と周防大島の住民とは、節度をもって互いに尊重しあい、共に学び、交流し、理解を深めていきます。

【ふるさと宝島、人がつなぐ周防大島グリーン・ツーリズムの推進】

グリーン・ツーリズムの基本は、島民自らが行う心地よく住み続けられる周防大島づくりです。そのうえで、「周防大島グリーン・ツーリズム」では、都市では失われつつある「人と農業」「人と島食^{しまごはん}」「人と自然」「人と文化」「人と人」という豊かな関係性の再発見・体感を推進していきます。

人と農業

持続可能な農業・農村の生産活動と交流を展開

農業や農村に対する理解の促進と安心安全な農産物のファンづくりに努め、島の農業生産や観光農園などの継続性を培うとともに、都市と島の共生・対流を推進

人と島食

周防大島の「島食^{しまごはん}」で、食の島おこし

周防大島で昔から食べられていた伝統食や独自の食文化の掘り起こしと継承。地元の食材を使った地域食や素朴で体にいい長寿食などを、「島食^{しまごはん}」として集積

人と自然

「ゆっくり、ゆったり、ゆたか」さを体感するいやしの機会の提供

周防大島の里山や農地を保全し、特色ある自然や景観の再生を図りながら、島の生活や心にふれ、何度でも訪れたい農山村づくりと農山村文化交流を推進

人と文化

周防大島の生活文化への誇りと愛着の醸成

周防大島の独自性の確立 = 周防大島らしさの創出につとめ、宮本常一のおしえをはじめとする地域の文化、歴史、伝統、祭、技などの発掘・継承を推進

人と人

島民主体の「島ぐらしのおすそわけ」型グリーン・ツーリズムの推進

ふるさとを大切に思う、志ある老若男女が参画して、地域資源を再認識し、有効活用しながら、「島ぐらしのおすそわけ」を推進

5. 個性的で味わいのあるグリーン・ツーリズムの展開要素

周防大島は宝島! 周防大島グリーン・ツーリズムお宝さがしメニュー

周防大島は、スローな島時間の流れる自然豊かな宝島。
島ぐらし体験や農の交流で、うるおいといやしのふるさと回帰

「農と食」が宝の島へ

周防大島の特色を活かした農業のふれあい体験、農畜産物の加工体験、
（「島ぐらしのおすそわけ」方式、「観光農園」方式、選べるメニュー）
クラインガルデンをはじめとする滞在型農体験の島のアピール
有機・無農薬・減農薬農業塾
海の幸、山の幸、里の幸、フルコースができるほど食が豊かな食材の活用
食を大切にすることは、農を元気にすること。周防大島の豊かな食文化を集積
し、「島食^{しまごはん}」としてアピール&作り方と味わい体験
じいちゃん・ばあちゃんと一緒に里山を歩き、食材調達の知恵を学ぶ
周防大島の伝統食や沖家室の長寿食を集積し、スローフードの島をアピール
大島みかん（あんせい柑、シオーレ）やさつまいも（東和金時）など、「農の周
防大島ブランド展覧会」と年間体験カレンダー「食と農の歳時記」づくり
みかん狩り加工体験（缶詰、マーマレード、パン、ジュース、ドレッシング）
「周防大島さつまいも大学」の開催。10月13日はさつまいもの日
さつまいも文化史講座と健康食・さつまいもを使った料理・菓子づくり体験
（かもち、いもうどん、たぬきだんご、いも粥、いもケーキ、いも粉かりん
とう、かんころ、いもきんつば、スイートポテト、いも羊羹、いもソフトクリ
ームなど）
さつまいもの植え付けから収穫、加工までのいも焼酎づくり体験
昔から伝えられていた茶粥文化体験（山の恵みの茶づくりから茶粥づくりへ）
（ほうじ茶、番茶、すいかずら茶、豆茶、はぶ茶、だんご入り、鯛入りなど）
割子めし
周防大島八十八ヶ所巡りとお大師さんの接待料理
竹の子山のつどい（竹の子狩りとスローフード）食べて竹林整備
農の加工品を売る・食べる、発信する拠点として「道の駅とうわ」との連携
島の畜産体験と牛乳料理づくり、牛乳料理の新名物化
周防大島野菜入りじゃこ天（金魚かたちに焼印）づくり体験
手作りところてんとみかんで、海と山のゼリーづくり
ピンポン玉みかん摘果と地引網体験（同じ季節の海と山の連携）
1種類の魚で10種類の料理を作っていた手料理のすごさと女の知恵袋
物々交換で自給自足の島づくり

「自然・景観」が宝の島へ

多島美、海、海水浴場、滝、川、湖、温泉、里、石積みの棚田や水洞、四季折々の花木、太陽、星、月、朝焼け、夕焼け、オレンジロードや山の眺望景観（ビューポイント）、半農半漁の集落景観など、日本の原風景が残る島の体感
森林・竹林環境整備（間伐、枝打ち、下草刈り、植林、炭焼き等里山・林業体験）
真宮島、沖家室島の重点的竹林整備で、美しい島づくりの拠点づくり
里山の幸で工芸体験（蛸かごづくり、輪飾りづくりなど）
周防大島の自然・景観再生活動・開墾
石工の技に学ぶ段々畑再生（全国最大の水洞、瀬戸内島嶼部最大の石積み棚田）
水使いの歴史めぐり（棚田・ため池・水路・水洞・水源）
風景達人による「私の好きな周防大島ビューポイント案内」
オレンジロードの眺望景観（ビューポイント・ポケットパーク）づくりとみかんの並木づくり

「歴史・伝統」が宝の島へ

周防大島「ぐるっと島ぐらし博物館」
（民俗めぐり、歴史めぐり、文化めぐり、技めぐり、芸術めぐりプログラム）
民俗資料通り（古い格子やなまこ壁の残る路地や古い町並み）の活用
大漁旗の島、全国大漁旗通りフェアの開催
橋民俗資料館、大島歴史民俗資料館、久賀歴史民俗資料館、農村交流伝承館などの連携を図る（民具・農具体験、再現料理イベントの開催）
ハワイ移民の島のアロハキャンペーン、サトウキビ農園づくり
（家紋アロハツアーで、島にカモン！・ルーツをふりかえろう！）
久賀の石工、東和の大工、大島の浜子、橋のみかんづくりの歴史遊学
服部屋敷で農生活体験・縁側談義・伝承遊び体験
周防大島八十八ヶ所巡り（弘法大師ゆかりの札所・行程160km。縁日は、お大師さまの命日の3月21日）とお接待（おにぎり、茶粥、パンなど）
延命長寿の島。しあわせ祈願（四岩合わせ奇岩／帯石、岩屋、立岩、竜崎）
嫁いらず観音、全身観音めぐり（目観音、手観音、足観音、頭観音など）
幕末の史跡めぐり（明治維新のルーツを訪ねる旅／四境戦争、第二奇兵隊）
民俗学者・宮本常一のおしえと原風景
平家伝説（瀬戸内海・海の道の連携）
陸奥記念館と陸奥の歴史（呉・大和ミュージアムとの連携）
村上水軍の島（周防大島と因島の連携）
盆に沈む島・沖家室島のぐるっと島ツーリズム（泊清寺など）
多島美めぐり（真宮島、情島、浮島、頭島、前島、笠佐島）
まつりとの連動（天神まつりなど）

「生活文化」が宝の島へ

周防大島五湯温泉巡りや石風呂などをつないで、美といやしの島をアピール
健康の島のイメージづくり（スポーツ・レクリエーションイベントなど）
各集落に残る農園つき住宅群の織り成す町並み景観の連続性を大切にする
半農半漁の村景観の保全
廃校、休眠施設などが出てくると予測されるが、グリーン・ツーリズムの体験拠点
としての活用を検討
増えつつある空家の活用（地権者との話し合い）
古民家を利用した街角アート展
四季の花（五条の千本桜、地家室の水仙、みかんの花、オーストラリアの花苗）
島の温泉の活用（湯さらいネットの通年化）
スポーツといやしのグリーン・ツーリズムの融合
島の語り部によるツアー

「人」が宝の島へ

周防大島出身の民俗学者・宮本常一のおしえと、宮本イズムの継承
作曲家・星野哲郎をはじめとする周防大島出身の著名人とのつながり
山本万之丞(山本系みかんの祖)、藤井彦右衛門(大島みかんの祖)に学ぶ大島みか
んのルーツの伝承
周防大島の人々の生活が見えてくる旅の案内役は周防大島の住民自身
心や知識や技が豊かになる出会いの旅をプログラムし、周防大島ファンづくり
小さな仕事をたくさんつくって、誰もが生涯現役の島づくり
島民一人ひとりが「周防大島グリーン・ツーリズム」の推進力

地域活動団体のパワーをネットワーク！

団体 / 周防大島くらし体験ネットワーク・NPO法人周防大島自然体感クラブ・NPO法人
ふるさと里山救援隊・周防大島元気村・とんぼの会・周防大島郷土大学・NPO法人ココロとカ
ラダ健研究会・グリーン・ツーリズムエスコーター・インストラクター・周防大島町生活改善実行
グループ連絡協議会・みかんふるさと会・周防大島みかんいきいき営農塾・周防大島みかんサポ
ータークラブ・周防大島観光ボランティア・ガイドの会・道の駅サザンセトとうわ農産物直売所
日曜市、かいもちグループ・NPO法人自然と釣りのネットワーク・周防大島ステーション・島
スタイル・周防大島ブロードバンド化推進チーム

団体 / 周防大島町観光協会・周防大島町久賀生涯学習振興財団・山口県商工会女性部連合会

施設 / 周防大島文化交流センター・周防大島担い手支援センター他

6. 推進のための体系と想定される効果

(1) 推進のための体系

推進体制の整備	グリーン・ツーリズム相談窓口の設置
	受け入れ体制整備（通年プログラム）
	ネットワーク化・連携の推進
推進環境の整備	周防大島らしいグリーン・ツーリズムの創出
	推進方向の明確化と優先順位の検討
	島外の「島人会」等へのニーズ把握アンケートの実施
	ニーズの掘り起こしとマーケットの開発
	グリーン・ツーリズムの広報と認知度向上活動
人づくり	推進の核となるマネジメント人材・団体の育成
	リーダーの育成
	サポーターの育成
	U・I・Jターン支援
	島の語り部・島の達人の発掘と認定
情報発信	多様な情報の受発信
	情報の共有システムづくり
	周防大島出身著名人：グリーン・ツーリズム大使
地域活動の活性化	農業・観光農園・農村体験メニューなどの開発
	直売所、農家レストラン、農家民宿などへの挑戦
	法制度面の整備(特区・規制緩和等)
	地域資源の活用・既存施設等の活用

情報センター機能

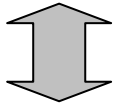
< 高大連携 >

田布施農業高校大島分校
「グリーンライフ」の授業とグリーン・ツーリズムへの提案

連携

周防大島グリーン・ツーリズム情報センター(仮称)設置の検討

「周防大島グリーン・ツーリズム」の推進を目指して、上記機能の中核となる、「周防大島グリーン・ツーリズム情報センター(仮称)」の設置をめざします。「島ぐるみ周防大島ツーリズム」の実現に向けて、周防大島町民活動ネットワークセンター設置検討会議で協議中の「周防大島町民活動ネットワークセンター(仮称)」構想との連携の可能性を探ります。プランづくりが進行中の「周防大島町地産地消推進プロジェクト」との将来的な連携の可能性を探ります。



連携

< 人材支援連携 >

周防大島担い手支援センター
就農・援農へ向けて多様な担い手の支援体制整備(平成18年4月設立)

< 観光連携 >

周防大島町観光協会
観光協会と、周防大島グリーン・ツーリズムとの連携を模索

< 農と漁の連携 >

周防大島ブルー・ツーリズム
「周防大島みなと再生プラン」等に掲げられている「周防大島ブルー・ツーリズム」との連携

< 文化交流連携 >

周防大島文化交流センター
センターの交流事業関連の機能との連携

< Web情報連携 >

民間周防大島地域づくり情報発信拠点との連携

(2) 推進によって想定される効果

都市農村交流による地域活性化

新たな産業分野の創出

地域資源を活かして、誰でも取り組める多彩で小さな地域産業づくり

農村の持つ国土景観保全、食糧供給、水土保全などの公益性への共通理解

自分の生活する地域への理解と誇り、周防大島らしさの見直し

生きがいづくりと、地元の名人・達人の発掘

担い手の確保・育成、雇用・就業機会の拡大、所得の向上

交流人口の拡大（都市交流者へのいやしの機会と第二のふるさとの提供等）

都市と農村の交流による消費拡大

周防大島グリーン・ツーリズム情報センター機能の充実による事業活性化と連携

7. グリーン・ツーリズムの推進に向けて

島の宝、再発見!

平成17年度に実施した「周防大島グリーン・ツーリズム推進ワークショップ」の第1回・地域巡りツアーや第2回・宝島ミーティングを通じて、本地域の多様な宝資源を再認識しました。今後も、島に残る自然環境や景観、独自の建築物や伝統芸能などの歴史的・文化的資源を再評価し、また、達人や名人など、新たな宝資源を発掘する活動を継続していきます。

周防大島ツーリズムカレッジ(仮称)の開催

「周防大島グリーン・ツーリズム」による新たな産業おこしをめざして、平成18年度は、「周防大島グリーン・ツーリズム推進ワークショップ」の実践編として、ツーリズムビジネス対応型の「周防大島ツーリズムカレッジ(仮称)」を住民が主体となって企画・開講・運営し、専門講師を迎えて、学びと実践の場とします。

都市農山村交流者ニーズの把握

「島人会」をはじめ、都市交流者へのグリーン・ツーリズムニーズ把握のためのアンケートや聞き取りを行い、周防大島に何を求めるかを把握します。

周防大島グリーン・ツーリズム情報センター(仮称)設置

「周防大島グリーン・ツーリズム」の広報PRや、島ぐるみネットワーク、情報の受発信など多彩なセンター機能の発揮をめざして、グリーン・ツーリズムのみちしるべとなる「周防大島グリーン・ツーリズム情報センター(仮称)」を設置します。まず、Webでの情報発信に取り組みます。また、「周防大島ブルー・ツーリズム」との連携も図っていきます。

周防大島グリーン・ツーリズムマナーアップキャンペーン

周防大島を訪れる非日常性と期待感を増幅し、本地域での滞在中のマナーを守ってもらうために、例えば「周防大島グリーン・ツーリズム・パスポート制度」などの導入を検討します。また同時に、受け入れ側のウェルカム・マナーアップキャンペーンも行っていきます。

周防大島ツーリズム、テストイベントの実施

「周防大島ツーリズムカレッジ（仮称）」を通して、農家・農山村を中心にしたグリーン・ツーリズム実践イベントを企画し、開催します。そのプロセスを共有することでノウハウを集積し、グリーン・ツーリズム産業の継続的な推進への自信を深めていきます。また、ブルー・ツーリズムとの連動を図り、農山漁村一体での地域づくり活動につなげていきます。

テストイベントの結果評価・検証

実施したイベントは、必ず評価・検証・記録し、次の成功に結びつける参考にしていきます。

島ぐらし体験プログラムの開発とマップ・パンフレットづくり

再発見した島の宝を活かし、あるものとあるものを組み合わせて、周防大島の環境や生活を肌で体感できる体験プログラムを開発します。プログラム実施は、消費者の嗜好や要望を直接聞くことができるマーケティングの機会にもなります。さらに、「島ウォッチング」「島の宝探し探検隊」などは、都市住民から見た周防大島の魅力を再確認する機会にもなります。これらを、グリーン・ツーリズムマップやパンフレットにまとめ、PRツールとします。

本格実施へ

「周防大島ツーリズム行動計画」を作成し、ニーズやマーケティングに基づいた地域連携のもと目的、ターゲット、メニュー、プログラムなどを決定し、本格実施していきます。

すでにグリーン・ツーリズムについては、本地域において取組みが始まっています。今後、リピーターを促進するためには、他にはない魅力づくりが必要です。

そのため、農作業体験、直売所、農家レストラン、農家民宿等の運営を担う農家だけでなく、食材の供給や自然体験プログラムと場の提供など、地域交流とネットワークを強化する必要があります。さらに、周防大島の伝統技術や芸能、文化の保全・継承や美しい島づくりに向けて、将来的には全島民が「周防大島グリーン・ツーリズム」の理解者として、協力体制をつくりあげていく必要があります。また、本地域の魅力づくりとともに、既存の情報発信システムとの連携強化により、広く情報発信・PR活動を行うことも大切です。

参考：グリーン・ツーリズム受け入れのタイプ分類

- 個人農家による受け入れ
- 観光農園・体験農園による受け入れ
- 農村集落などの限定地域による共同受け入れ
- 有志グループによる共同受け入れ
- 行政・第3セクターなどによる受け入れ
- 市町村全域での受け入れ

周防大島ツーリズム歳時記・年間体験プログラム

春 3月	春 4月	春 5月
<p>農・落葉を集めて畑の土づくり 食・モウソウ竹の子の缶詰め作り 食・イヨカンの缶詰め作り 自然・山菜取り 自然・竹の子掘り 自然・色々な貝類を食べてみよう 人・さつま芋ツルづくり名人教室 まつり・西日本少年サッカー大会</p>	<p>農・いちご狩り 自然・洋上お花見 まつり・お大師様めぐり まつり・延命の滝観音まつり</p>	<p>農・みかんの花香りの散歩コース 農・南津海(なつみ大島ブランド) みかん狩り 農と食・玉ねぎの収穫 自然・竹林整備 人・みかん援農塾開校</p>
夏 6月	夏 7月	夏 8月
<p>なむでん踊り 農作業(草刈・摘果) 自然を散歩しようツアー 大島・水の歴史巡り</p>	<p>こども交流大会(こども版地元学) 天草料理とおはなしの会 夏の清掃作業と流木アート 釣り大会と海岸清掃 地引網とバーベキュー・料理体験</p>	<p>郷土料理教室 全国花火自慢と燈籠 ゆったりキャンプ バイクで走ろう大会 大島でハワイアン・ウエディング!</p>
秋 9月	秋 10月	秋 11月
<p>農・秋の田収穫 食・サンセットビーチ・パーティ 芸術の秋を楽しもう 魚釣りと離れ島・無人島に行く 農・摘果ジュース加工 島のお月見ウォーキング 大島を歩こう</p>	<p>農・早生みかんの収穫 食・落ち葉で焼き芋 秋祭(収穫祭、天神祭) 女性GTカリスマサミット(農家のかあちゃん集まれ) 写真詩人芸術展 農・さつま芋掘りとさつま芋料理</p>	<p>食・秋の山菜を食べる 食・太刀魚釣り体験 島の花見 食・イカを釣ろう 祭・いのこ体験 農・野菜収穫体験</p>
冬 12月	冬 1月	冬 2月
<p>農業・みかんの収穫体験 食・磯でブチ自給自足 自然・聖夜のLOVE!! 恋のキャンドルナイトCafe(模擬店) 移動販売車 自然・はげの紅葉を見る 祭・駅伝大会とみかん 祭・いのこ体験</p>	<p>祭・新年カウントダウン(1.1) 技・冬の凧タコ企画(1.5~7) 祭・どんど焼き(1.9) 食・大寒の大島ナベ 食べ放題 技・タヌキの捕獲技術に挑戦! タコ漁の実態と料理 フレッシュチーズ作り</p>	<p>人・宮本常一 水仙忌(2.1) 農・柑橘類の加工体験 技・オリジナルアロハの製作 祭・弾き語り 花といちごづくり(1月~2月) ワーキングホリデー 戦艦「陸奥」の幻のカレーづくり</p>

8. おわりに

(1) それぞれの役割

県の役割

県は、積極的なグリーン・ツーリズム活動や新たなグリーン・ツーリズム活動の創出に対して、県の情報力を活かして、最新の行政情報や制度の情報を収集・提供し、広域的な連絡調整やネットワークづくりを行います。また、各分野が連携し、「やまぐちグリーン・ツーリズム推進計画」にもとづき、山口県の実情にあった施策を総合的・体系的に推進する役割を担います。

周防大島町の役割

周防大島町は、住民に身近で地域の活性化に直接関わる行政機関として、地域資源を最大限に活用し、地域や地域組織と一体になった活動を通じて、地域の特性に応じた施策を展開し、住民の主体的な取り組みを支援するよう努めます。

地域住民の役割

地域住民は、地域の活性化と都市住民の農業や農山村への理解を深めるために、周防大島の農山村と都市との交流に積極的かつ主体的に取り組むよう努めるものとします。

また、観光関係者や農山村と都市との交流に関わる事業者や、地域づくり等に関わるNPO法人や住民団体は、行政機関と地域住民との橋渡し役、情報受発信役を担うことが求められていることから、それぞれの事業を通じて、地域住民と連携して交流に取り組むように努めるものとします。

都市住民の役割

農山村の豊かな自然、伝統文化、郷土料理などの地域資源は、みんなの共有財産であり、それらを適切に維持・保全し、継承するためには、都市住民の理解と協力が不可欠であることから、都市住民は、農山村との交流に努めるものとします。

(2) 平成22年度までの行動計画

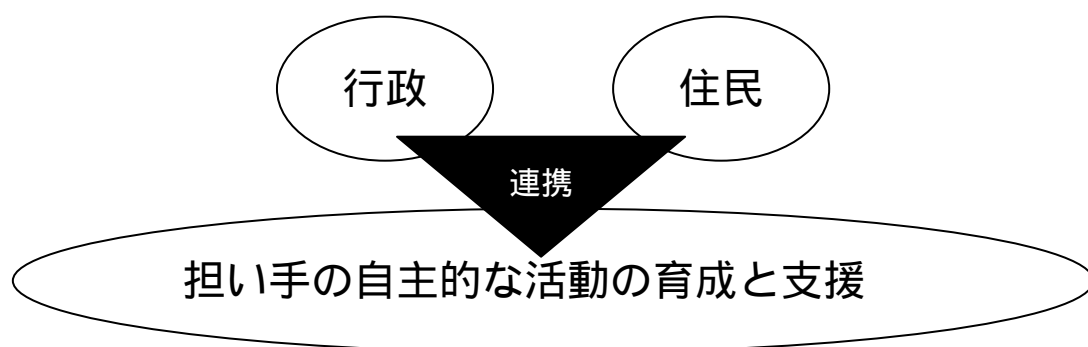
年度	重点的な推進計画
平成16年度	推進協議会の設立 モデル地域としての基盤づくり
平成17年度	「周防大島グリーン・ツーリズムの展望」の検討と策定 ネットワークづくりと人材育成
平成18年度	周防大島ツーリズムカレッジ(仮称)の開講 都市農山村交流者ニーズの把握 周防大島グリーン・ツーリズム情報センター、相談窓口、事務局の設置 マナーアップキャンペーン テストイベントの実施
平成19年度	パンフレットづくり Web開設 島の語り部・島の達人発掘 実践活動と体験メニュー・通年プログラムづくり 特区の申請 リーダーの育成 サポーターの育成 親善大使の育成
平成20年度	実践活動の拡大 農家レストラン、農家民宿等の稼働
平成21年度	グリーン・ツーリズム産業の自立的活動への体制づくり
平成22年度	自立的活動の拡大と産業化 滞在型農園

(3) 周防大島らしいグリーン・ツーリズムの発展に向けて

周防大島の各地区や団体や個人が備えている条件はさまざまであり、グリーン・ツーリズムのあり方も多種多様であることから、一律的な手法や考え方ではなく、各地区や団体や個人に根ざした推進方法を模索していくことが大切です。

そのため、それぞれの自主的な取り組みをいっそう充実させることにより、あるいは新たな取り組みを開始することにより、周防大島の個性を活かしながら、それぞれの特性に応じた、地に足のついたグリーン・ツーリズムの取り組みを育てていくことが必要です。

したがって、周防大島の住民の理解と合意を大切にしながら、中長期的な視野に立って、グリーン・ツーリズムを進め、都市と農山村のつながりをより緊密なものにししながら、周防大島のよさ、周防大島らしさを次代に継承していきます。



グリーン・ツーリズムが、交流をはじめ、所得機会や雇用の拡大にとどまらず、地域づくりにつながることを確認する

ふるさと周防大島を大切にしようとする熱意を持つ多くの人々の参加を求め、自主的な取り組みを推進する

周防大島における合意形成（コンセンサス）を図るため、農業従事者だけでなく、地域住民、観光・商工業従事者など多様な人々が話し合える場作りを行う

各地区の自然や環境、農の伝統文化など、よいところ、個性の再発見を、将来に継承する

各地区の推進状況に合わせて、多様な展開を大切にする

今あるもの、これまで培ってきたもの、生活に息づいているものを大切にする

滞在、体験、交流の周防大島内での連携に留意する

受け入れる側、訪れる側、ともにマナーを身につけていく